

令和6年度卒業式・学位記授与式 祝辞

坂口です。工学研究科長，工学専攻長および工学部長としてお祝いの言葉を述べさせていただきます。

修了生および卒業生の皆さん，ご修了・ご卒業まことにおめでとうございます。保護者の方々にも私たち教職員のお祝いの気持ちを代表してお伝えいたします。また，コロナ禍の不自由な状況下も含めて，粉骨砕身して教育・研究の指導に尽力してくださいました教員の皆様と，様々な支援を賜りました職員の皆様に感謝申し上げます。皆様の喜びもひとしおのことと思います。

さて，芥川賞も受賞した著名な作家の井上靖（やすし）さんは，「努力する人は希望を語り，怠ける人は不満を語る」という言葉を残しています。私もまさにそうだなと思います。そこで，きょうはその言葉のように生きたアップル社の創業者であるスティーブ・ジョブズさんの話をして皆さんを送り出したいと思います。知っている方もおられるかもしれませんが，それはスタンフォード大学の卒業式で語られたものです。話の一つ目は「点と点を繋げる」ということです。彼は経済的な問題から大学を中退せざるをえなかったのですが，その後もこっそりと講義を受け続けて「カリグラフィー」という文字に出会いその習得に没頭したそうです。「カリグラフィー」とは，アルファベットやローマ字を美しく装飾して書く手書きの技法のことです。それがパソコン開発とどう繋がるのかと思いますよね。でも，それを学んだことが後の Mac 誕生の際に色々なフォントを生み出す発想に繋がりました。この逸話では，始めからそれをしようとするわけではなく，後からそれらが繋がると信じてやり続けることの重要性を説いています。二つ目として「愛と敗北が人生を豊かにする」と語っています。ジョブズさんは二十歳の時に自宅のガレージでアップル社を創設し，10年後には従業員4000人の会社に育てました。それなのに，外部から招いた経営者との間で亀裂が生じ，その10年後に自分で作った会社から解雇されたのです。しかし，そのような絶望の中にありながらも，次第に希望が沸いてきたそうです。なぜなら，自分がやってきたことが大好きで，それは変わらなかったからです。「アップルから追い出されたことは人生で最も幸運なことでもあり，会社を発展させるという重圧から解放され，もう一度やりたいことに挑戦する身軽さが得られた。」と述べています。そして，再び立ち上がり，ネクスト社を起業し，ピクサー社も設立しました。ピクサー社はトイ・ストーリーを生み出すことになり，世界で最も成功したアニメ会社となりました。一方で，愛する人に出会い家族ができました。家族の精神的ささえもあって，その後に再びアップルに戻ることになり，ネクスト社の技術によってアップル社のルネサンス期を迎えることとなるのです。「最悪の事態に見舞われても信念を失わず，仕事への愛を失わなかったからこそ前進し続けられた，だから皆さんも大好きなことを見つけてください。仕事でも恋愛でも同じです。」と彼は語っています。三つ目に話しているのは，「死を感じて今日を生きよ。」ということです。17歳の時に「それが最後の1日だと思って生きれば思いはかなう。」という言葉に出会いそれを続けてきたそうです。ジョブズさんはこのスピーチをした時期，癌を患っていたこともあり，その言葉には重みを感じます。私もこのスピーチを聴いた時，本意でない人生を生きて時間を

無駄にしてはいけないと強く感じました。無駄な人生などないですが、今新たな人生を歩み出そうとする皆さんも“時間は”無駄にしないで欲しいと願っています。

私がこの場でスティーブ・ジョブズさんの話をしたのは訳があります。彼が本業のエンジニアリングのみならずフォントなどのデザインや故事成語などの教養にも強い関心を持ち続けた結果として、Mac や iphone, ipad を生み出したからなのです。講義でも時々話をするのですが、皆さんがなぜアップル製品を使うのか？それは単に機能だけではなくそのデザインに惹かれるからだと思います。かつて日本の工業製品もそのデザインも含めて世界を席卷していました。私は日本にはエンジニアリングのアイデンティティがあると信じて疑いませんが、こんにちその一部に陰りがみられるのは工業デザインの影響があるのではないかと思っています。工学部の事務室にプチミュージアムを作ったのも、優れた芸術を目の当たりにすることで、ささやかながらこれから皆さんが生み出すであろう様々な工業製品に活かしてもらいたいとの思いが込められています。ジョブズさんの話や私の思いが多少なりとも皆さんの心に響いたとしたら私の喜びとするところです。

最後となりますが、みなさんの未来に幸多きことを、そして、今後の大いなる飛躍を祈念して、新たな門出へのお祝いの言葉をしめくりたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

令和7年3月18日 工学部長 坂口裕樹